

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100560		
法人名	有限会社M&Y		
事業所名	グループホーム鶴ヶ岱1階ユニット		
所在地	北海道釧路市鶴ヶ岱3丁目7番6号		
自己評価作成日	平成26年10月20日	評価結果市町村受理日	平成26年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム鶴ヶ岱1階ユニットは5名の少人数での生活をして頂いているが、その多くの利用者様は介護度の高い、重度化された方で、寝たきりの状態の方が半数以上を占めている。
その状況の中で管理者、職員、看護師、ご家族が常にカンファレンスを実施し、状況に合わせた適切な対応が出来る様、情報の共有をし、最後までその人らしさを保ち笑顔が見られるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100560-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成26年11月8日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<利用者が楽しんで生活できるような支援>
管理者、職員は利用者一人ひとりが生活に張りや自信を持って生活して行けるように、役割事や楽しみ事が行えるよう本人の希望や体調に合わせて春採湖周辺や敷地内での散歩や外気浴、ショッピングセンターへの買い物同行等戸外に出かけられるよう支援し、年間行事を立てて花見や紅葉散策、近郊の観光地へのドライブや外食等、普段行けない場所へも出かけられるよう取り組んでいます。また、事業所内でも節分、雛祭り、端午の節句、七夕、十五夜等、季節の節目を感じてもらえるような行事を行い、定期的にボランティアの慰問を受け、読み聞かせや身体を動かせるアクティビティー等で利用者が楽しんで過ごしてもらえるよう取り組んでいます。また、個別支援に取り組む、事前に本人の希望を聞き、誕生日は本人のやりたい事を実現できる日を設け、誕生会や買い物同行等で利用者一人ひとりが楽しんで生活して貰えるように支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族、地域と共に支え合う充実した生活環境づくりを理念の1つとし、利用者が自分らしい生活が送れるよう、事業理念に基づき、地域の方々と共に支え合えるよう実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り上げ、日常業務や職員会議等を通じて共有し、その実践に向けて取り組んでいる。また、見易い場所に掲示され、生活記録にも貼付されている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員としてその活動に利用者と共に参加をしたり、事業所行事に地域の方々の参加を得るなど、日常的に交流を深めている。	地域との関わりを大切にしながら地域活動や行事に積極的に参加し、事業所の避難訓練や野外昼食会等の行事にも参加して戴きながら地域の一員として交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会活動の交流の場に、事業所一部の開放をしたり、事業所研修への参加を地域の方々に呼びかけ、認知症の理解や支援方法を発信している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に於いて、現況報告やサービスの内容を定期的に報告している。そこでの多くの質問や意見はサービスの質の向上に役立っている。	運営推進会議は年6回実施し、事業所の活動報告や利用者の状況、日常生活の様子や火災避難訓練等の行事について具体的に話し合い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、事業所の現況やサービスの取り組みを面談、メール、電話等で連絡を取り合い相談にのって頂くなど、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市の担当者や包括支援センター職員とは運営推進会議の参加や日常業務を通じて電話や訪問等で情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び多くの職員は指定基準における禁止の対象となる具体的な行為は正しく理解しているが新入の職員等は個別での教育課程であったり職員会議で毎月全員で話し合い、拘束をしないケアを心掛けている。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、管理者及び職員は外部研修や内部研修を通じて、身体拘束をしないケアの理解や認識の共有が行われている。また、防犯目的以外の玄関の施錠は行っておらず、職員全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議、研修等で高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、当ホーム内での虐待が見逃さず事がないよう防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会等の参加により、学ぶ機会はあるが、職員全員が周知徹底するまでは至っていない。成年後見制度を利用されている利用者もあり、今後増々必要とされる制度なので理解を深め活用して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、改定の際は、利用者や家族には十分に説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見を気軽に伝えられるよう相談係を配置し意見箱の設置をしているがほとんどの家族、関係者は来訪の折に直接意見交換をすることが多く、それらを運営に反映させている。	家族や来訪者が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるよう意見箱を設置している。また、来訪時や電話等で意見を伺い、家族からの意見や要望は速やかに職員間で話し合い反映するよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や個々の面談の中から、意見や提案を受け反映させている。	管理者は、毎月の職員会議や日常業務を通じて意見や要望、提案を聞くよう取り組んでいる。また、必要に応じて個人面談を行い、意見や要望、希望等を聞き、向上心を持って勤務できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員が、個々の努力や実績に合った職場環境となるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員が法人内外の研修会に参加できるようにその機会の確保や、積極的に自分から意識の向上を図っていくよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会、北海道認知症グループホーム協会に加入し、研修会や交流会を通じ、交流できるように図り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期にこれまでの生活や心身の状況を本人やご家族とよく話し合い、本人が安心して生活できるように信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する際は、ご家族の不安や要望を十分に傾聴し話し合いの時間を多く取り、今後のより良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族からの情報の収集に努め、必要としている支援を見極め柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、食器洗いや洗濯物たみ等の家事全般を利用者と共に活動する事や共有できる話題で時を一緒に過ごす事などで良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に日々の生活情報や出来事を通信や面会の際に伝えたり、不安や相談ごとを互いに話し合いながら、共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来訪や、馴染みの場所へ行く等の支援に努め、より良い関係が出来る様に努めている。	利用前からの生活歴や家族からの情報等、センター方式のアセスメントシートを活用して、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係が悪化したり、孤立することの無いよう、支えあえる関係づくりが出来る様に一人一人を見守り支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族より連絡、相談があった時は、その都度これまでの良い関係性を大切に必要の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の思いや暮らし方の希望、意向を把握し支援している。	センター方式を活用し、日常生活の表情や会話から情報を収集し、家族からも聞き取りを行い、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、申し送りや記録、職員会議で情報の共有が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの他のサービス利用や本人のそれまでの生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境を把握するよう努めケアに役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の過ごし方、状態を把握するように生活記録に残し、確認しその状態や有する力の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心にケースカンファレンス、職員会議、本人の意見、希望を聞き、家等や医師、関係者との意見交換をし現状に即した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすために本人、家族と話し合い、それぞれの意見や希望を取り入れた介護計画を作成している。また、毎月の職員会議やカンファレンスで、職員からの意見や提案を反映させた現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、体調、ケアの実践、結果等を記録に残し職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向に添って柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、町内の自然を生かした散歩や外気浴、同一敷地内の他事業所との交流などにより、楽しみのある暮らしが出来る様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医の往診を受けたり、また病院受診が必要なときは家族と共に職員が同行し、その都度状況を医師に伝えるなど適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となり、事業所の看護師を中心として利用者の健康管理に努めている。また、医師の往診や病院への受診の際は職員が同行するなどして適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師やかかりつけ病院の看護師に日常の中での情報や気づきを相談、報告したり緊急時に状況の報告をし対応の指示を受け利用が適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には家族に同行をし、医療機関との情報交換や相談をして利用者が安心して治療を受けられたり、早期退院が出来る様医師と密に情報交換をしたりして支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について入所契約時から家族とは話し合っているが、方針はすべての家族と共有するには至ってはいないが常にその話し合いの機会を設け、共有できるよう努力している。	重度化や終末期の在り方について、契約時にターミナルケアの方針について家族に説明し、同意書を交わしている。また、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を共有するよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防署の救急救命の講習訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月 の職員会議に緊急時の避難誘導訓練を実施し、全職員が昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけられるようにしている。地域との方々との協力体制も最低年2回の訓練に参加協力して頂いている。	年に2回、消防署の協力の下、地域の方々と一緒に通報から避難誘導まで行う総合訓練を実施し、自動通報装置には地域の方々も登録され協力関係も築かれている。また、地域で行われた土砂崩れを想定した避難訓練にも参加している。	地震、土砂崩れ等の自然災害への防災対策について地域との連携を含めた避難の手順や誘導、避難経路確保等についてマニュアル作りや地域の方々と話し合い取り組みを検討しているため、その実践に期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、尊厳を保てるようプライバシーに配慮した声掛けや対応を心掛けている	一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応を心掛けており、プライバシーや羞恥心の配慮にも十分に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表現できたり、自己決定出来る様に働きかけ、個別の対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、外気浴の時間や入浴の時間等は利用者の体調や思いを考慮し、利用者本人の意思決定を尊重できるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の想いでその人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が安全で楽しいものとなるように個々の体調に合わせたメニューや食事形態を工夫している。	利用者の一人ひとりの好みを把握し、品数や色合い、季節の旬な食材等取り入れながら食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。また、利用者の力を活かしながら、可能な限り一緒に準備や食事、後片付けが行えるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分の摂取量を記録に残し、量や栄養バランスの確認、確保が出来る様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	医療機関より口腔ケアの指導を受け、利用者個々の状態、力に合わせたケアの支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用を減らすよう、排泄の状況を記録し一人ひとりの排泄パターンを活かしたトイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす体調の状況を医師や看護師と相談し、個々の利用者に合わせて食事の提供の工夫や軽い運動を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴を楽しめるように、利用者の希望やタイミングに合わせた支援を心掛けているが、体調や行事都合等で変更せざる負えない場合もある。	週2回以上を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。また、入浴拒否の強い利用者にも柔軟に支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調の変化や、夜間の様子等を職員が把握し、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者の薬の説明書をファイルし、職員全員がその薬の効能、副作用、用法、用量の確認、理解をしながら症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事で力を発揮できるよう楽しみ事、気分転換が出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴などの外出は体調や気温、天候に配慮している。	本人の希望や体調に合わせて春採湖周辺や敷地内での散歩や外気浴、ショッピングセンターへの買い物同行等戸外に出かけられるよう支援している。また、年間行事を立て花見や紅葉散策、近郊の観光地へのドライブや夕食等、普段行けない場所へ出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さは理解しているが、利用者はお金の意味を理解できず、お金の所持や使用の支援にはなっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙のやり取りが出来る様に家族と相談しながら確認をとりながら支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に季節の花で生け花をしたり、観葉植物、展示物で生活館や季節感をだし、心地よく過ごせるように工夫している。	室内は適切な温度や湿度が保たれており、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間は季節毎の飾り付けや行事の写真を掲示し、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では一人になれる場は限られているが、リビングや敷地内のベンチ等で気の合った利用者同士で思い思いに楽しく過ごせる様、居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや好みの物を活用したり、空気清浄器や加湿器の設置をし心地よく過ごせるように工夫している。	居室には、本人や家族と相談しながら、自宅で使い慣れた家具や寝具、手作りの作品や家族の写真などが飾られて、本人が居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせ、居住空間や共有スペースの手すりや導線の見直しをし、安全に配慮し出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	41	嚥下能力の低下による食事摂取困難な利用者や食事摂取を拒否する利用者がいる。	1日の必要摂取量を管理者、職員が把握し、食事、水分の摂取が出来る。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の利用者の嚥下状態に合わせた食事形態工夫 ・個々の利用者の好みに合わせたメニューの工夫 ・拒否に対しては時間や摂取場所を配慮する 	12ヶ月
90	33	重度化した場合や終末期の在り方について入所契約時から家族とは話し合っているが方針をすべての家族と共有するには至っていない。	終末期ケアの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・家族との情報の共有に努め、信頼関係を深める。 ・医師、看護師との連携を図る。 ・管理者、職員は本人の心身の状況や体調の変化を記録し、情報の共有をして適切な対応をする。 	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100560		
法人名	有限会社M&Y		
事業所名	グループホーム鶴ヶ岱2階ユニット		
所在地	北海道釧路市鶴ヶ岱3丁目7番6号		
自己評価作成日	平成26年10月19日	評価結果市町村受理日	平成26年12月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100560-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム鶴ヶ岱2階ユニットは6名と少人数での生活をして頂いている事で、利用者様同士の絆も深まっており、毎日楽しそうな会話や笑い声が絶えない場と成っている。

利用者様の外出支援(散歩や行事)の希望に添い、朝、午後からとホーム敷地内の花壇の花や木を見たり、草取りなどの手入れをスタッフと一緒にされたり、また近くの公園や港、隣町の公園にドライブを兼ねて出かけたり等外出支援に力を入れている。また近くにショッピングセンターに毎日の買い物に同行して頂き楽しんで頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族、地域と共に支え合う充実した生活環境づくりを理念の1つとし、利用者が自分らしい生活が送れるよう、事業理念に基づき、地域の方々と共に支え合えるよう実践につなげている。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の一員としてその活動に利用者と共に参加をしたり、事業所行事に地域の方々の参加を得るなど、日常的に交流を深めている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会活動の交流の場に、事業所一部の開放をしたり、事業所研修への参加を地域の方々に呼びかけ、認知症の理解や支援方法を発信している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に於いて、現況報告やサービスの内容を定期的に報告している。そこでの多くの質問や意見はサービスの質の向上に役立っている。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、事業所の現況やサービスの取り組みを面談、メール、電話等で連絡を取り合い相談にのって頂くなど、協力関係を築けるよう取り組んでいる。			
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び多くの職員は指定基準における禁止の対象となる具体的な行為は正しく理解しているが新入の職員等は個別での教育課程であったり職員会議で毎月全員で話し合い、拘束をしないケアを心掛けている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、研修等で高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、当ホーム内での虐待が見過ごす事がないよう防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会等の参加により、学ぶ機会はあるが、職員全員が周知徹底するまでは至っていない。成年後見制度を利用されている利用者もあり、今後増々必要とされる制度なので理解を深め活用して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、改定の際は、利用者や家族には十分に説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見を気軽に伝えられるよう相談係を配置し意見箱の設置をしているがほとんどの家族、関係者は来訪の折に直接意見交換をすることが多く、それらを運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や個々の面談の中から、意見や提案を受け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員が、個々の努力や実績に合った職場環境となるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員が法人内外の研修会に参加できるようにその機会の確保や、積極的に自分から意識の向上を図っていくよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会、北海道認知症グループホーム協会に加入し、研修会や交流会を通し、交流できるように図り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期にこれまでの生活や心身の状況を本人やご家族とよく話し合い、本人が安心して生活できるように信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する際は、ご家族の不安や要望を十分に傾聴し話し合いの時間を多く取り、今後のより良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族からの情報の収集に努め、必要としている支援を見極め柔軟に対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、食器洗いや洗濯物たたみ等の家事全般を利用者と共に活動する事や共有できる話題で時を一緒に過ごす事などで良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に日々の生活情報や出来事を通信や面会の際に伝えたり、不安や相談ごとを互いに話し合いながら、共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来訪や、馴染みの場所へ行く等の支援に努め、より良い関係が出来る様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係が悪化したり、孤立することの無いよう、支えあえる関係づくりが出来る様に一人一人を見守り支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族より連絡、相談があった時は、その都度これまでの良い関係性を大切に必要の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の思いや暮らし方の希望、意向を把握し支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの他のサービス利用や本人のこれまでの生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境を把握するよう努めケアに役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の過ごし方、状態を把握するように生活記録に残し、確認しその状態や有する力の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心にケースカンファレンス、職員会議、本人の意見、希望を聞き、家等や医師、関係者との意見交換をし現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、体調、ケアの実践、結果等を記録に残し職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向に添って柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、町内の自然を生かした散歩や買い物、同一敷地内の他事業所との交流などにより、楽しみのある暮らしが出来る様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医の往診を受けたり、また病院受診が必要なときは家族と共に職員が同行し、その都度状況を医師に伝えるなど適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師やかかりつけ病院の看護師に日常の中での情報や気づきを相談、報告したり緊急時に状況の報告をし対応の指示を受け利用が適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には家族に同行をし、医療機関との情報交換や相談をして利用者が安心して治療を受けられたり、早期退院が出来る様医師と密に情報交換をしたりして支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について入所契約時から家族とは話し合っているが、方針はすべての家族と共有するには至ってはいないが常にその話し合いの機会を設け、共有できるよう努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防署の救急救命の講習訓練を定期的を受け、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月 の職員会議に緊急時の避難誘導訓練を実施し、全職員が昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけられるようにしている。地域との方々との協力体制も最低年2回の訓練に参加協力して頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、尊厳を保てるようプライバシーに配慮した声掛けや対応を心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表現できたり、自己決定出来る様に働きかけ、個別の対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩の時間や入浴の時間等、利用者のペースや気持ちを重視し、なるべく利用者本人の意思決定を尊重できるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の想いでその人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者が盛り付け、配膳、食器洗い等の家事に積極的に参加され、楽しみながら食事されたり、役割を持って家事参加をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分の摂取量を記録に残し、量や栄養バランスの確認、確保が出来る様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	医療機関より口腔ケアの指導を受け、利用者個々の状態、力に合わせたケアの支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、一人ひとりの排泄パターンを活かしたトイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、外気浴の声掛け等、運動を促し、便秘、運動不足の予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴を楽しめるように、利用者の希望やタイミングに合わせた支援を心掛けてはいるが、体調や行事都合等で変更せざる負えない場合もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調の変化や、夜間の様子等を職員が把握し、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者の薬の説明書をファイルし、職員全員がその薬の効能、副作用、用法、用量の確認、理解をしながら症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事で力を発揮できるよう役割や楽しみ事、気分転換などの機会を設け、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などの日常的外出は気温や天候に配慮しほぼ毎日行っているが、家族の協力で自宅への一時帰宅や地域の人々の協力を得、地域行事への参加の為の外出支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持、管理ができ、生きがいのある暮らしが出来る事の大切さを職員は良く理解しており、個々の力や希望に添い、買い物の同行をしたり代行を行い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙のやり取りが出来る様に家族と相談しながら確認をとりながら支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に季節の花で生け花をしたり、観葉植物、展示物で生活館や季節感をだし、心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では一人に成れる場は限られているが、リビングや敷地内のベンチ等で気の合った利用者同士で思い思いに楽しく過ごせる様、居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや好みの物を活用し、心地よく過ごせる様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせ、居住空間や共有スペースの手すりや導線の見直しをし、安全に配慮し出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災以外の災害の対応が出来ていない	職員に避難経路や避難方法等それに伴い、前もって準備すべきことなどを周知徹底する	・毎月の職員会議を利用して勉強会を開催する。 ・避難経路、避難先、避難方法等マニュアル化し周知徹底する。 ・緊急時の持ち出し物品の準備、確認をする。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。